



県立広島大学 Prefectural University of Hiroshima

地域連携センター報

Vol. **23**

COMMUNITY LIAISON CENTER

平成28年10月20日発行

県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号 電話082-251-9534 E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

脳をみるシンポジウム in 三原



第13回 脳をみるシンポジウム in 三原

平成28年 **2/6(土)**
13:30~16:30 (開場13:00)

会場 **三原リージョンプラザ文化ホール**
所在地: 三原市南一町2丁目1-1 TEL: 0848-94-7555
交通: JR三原駅西口から徒歩10分

参加費 **無料**

要約筆記があります

申込み方法・問い合わせ

1 申込(40名) 申込締切日: 3年前 申込費をご記入の上、下記のいずれかの方法でお申込みください。お申込み後、当日、会場までお越しください。※個人申込み費は発生しません。
① メールでお申込み: renkei@pu-hiroshima.ac.jp
② 申し込み受取先: 0848-94-1344
③ 申し込み先: 〒723-0003 三原市学園町1-1 県立広島大学三原キャンパス内「脳をみるシンポジウム in 三原」実行委員会事務局
④ 窓口でお申込み: 県立広島大学三原キャンパス 4号館1階受付窓口

平成28年2月4日(木)までに申込みください。
申し込みが満了の場合は、参加申込に変わりません。 (広島県生涯学習センター)

プログラム

司会: 岡田 俊英 (県立広島大学 副学長)
岡崎 健 (三原市社会福祉課 課長)

演題・シンポジスト

認知症を持つ人の活動障害の捉え方と支援方法
県立広島大学 保健福祉学部 作業療法学科 高野 西田 征治

脳内物質と脳に効く薬
広島大学大学院 医薬系保健学研究科 教授 酒井 規雄

嚥下障害と認知症
県立広島大学 保健福祉学部 コミュニケーション障害学専攻 教授 土師 知行

皆さんも佐木島で海濱セラピーを!! 脳もリラックスー
広島県立広島大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科 教授 専任 大塚 彰

主催: 「脳をみるシンポジウム in 三原」実行委員会・三原地域連携推進協議会
協賛: 県立広島大学 (三原地域連携センター)、三原市医師会、三原商工会議所、三原市
後援: エーザイ株式会社、エーア・株式会社、中国新聞社、中国放送株式会社、広島県立広島保健福祉センター、広島県立広島産業技術センター、広島県立広島看護専門学校、広島県立広島看護専門学校、広島県立広島看護専門学校、広島県立広島看護専門学校、広島県立広島看護専門学校、広島県立広島看護専門学校



「脳をみるシンポジウム in 三原 — 第13回のご報告と第14回のご案内 —」

「脳をみるシンポジウム in 三原」は、本学と三原市医師会、三原商工会議所、三原市からなる三原地域連携推進協議会とシンポジウムの実行委員会が主催し、年1回開催しています。テーマは、認知症や脳卒中など脳に関する身近で、かつ先進的な幅広い分野の話題をとりあげています。2003年度にスタートしたこのシンポジウムは、2015年度で第13回を迎えました。

「21世紀は脳の世紀」と言われますが、脳に関するシンポジウムが産学官連携で13年間も続いている全国でも稀なケースで、毎年、地域の皆様(三原、竹原、尾道、福山、東広島の各市及びその他の県内)、医療福祉専門職の方々、学生など200人以上の方々にご参加いただいています。

また、聴覚に障害をもつ方のためには要約同時筆記を併設しています。この要約筆記は本学コミュニケーション障害学科の学生が担当しており、学生もシンポジウムの一翼を担っています。

さて、第13回は「脳のシステム—課題とヒント—」をテーマとして2016年2月6日に開催し、各専門分野の4名のシンポジストから分かりやすくご講演いただきました。参加人数は289人で、シンポジウム全体の満足度は7割以上と高く、好評を博すことができました。

本年度第14回は2017年2月18日に「人工知能とヒトの脳(仮題)」のテーマで開催する予定です。入試問題を解き、小説も書き、囲碁の世界トップ棋士も破るなど人工知能(AI)の進歩が報じられ、わが国でも医療、農業、工業、環境などの分野とAIを組み合わせた新産業を創出しようという機運が高まるなか、タイムリーなテーマであると思います。関心をお持ちの方は是非ご参加ください。

第14回 脳をみるシンポジウム in 三原

テーマ: 「人工知能とヒトの脳(仮題)」

日時: 平成29年2月18日(土) 13:30~16:30

場所: 三原リージョンプラザ文化ホール

参加費: 無料

今年度も
2月に
開催します!

庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

産学官連携

しょうばら産学官連携推進機構

5月31日(火)に当機構の今年度理事会・総会を庄原グランドホテルにて開催しました。約30名の出席者のもと、すべての議案について原案どおり承認されました。



今年度の事業方針は産学官連携の基礎である「マッチング」について原点に戻り、「企業と大学をつなぐ」ことに重点的に取り組みます。加えて、金融機関や学生との連携を強化し、より成果の創出を意識した事業展開を図ります。

「プロジェクト事業」においても、「企業と大学をつなぐ」という根幹部分を重視した取り組みを行います。また、シーズの発信及びニーズの掘り起こしを積極的に行い、新たなマッチングを創出させる取り組みを行います。

三次イノベーション会議総会

6月2日(木)に三次市役所にて三次イノベーション会議総会を開催しました。本会議は三次市の産学官連携推進を目的に、三次市、三次商工会議所、三次広域商工会、本学が構成員となっています。総会では原案どおり承認され、例年行っている本学教員紹介、大学共同研究助成等に加え、今年度は産業活性化の研究プロジェクト、活動の情報公開を積極的に行っていく予定です。また本学学生を含めた連携を一層深めていくことも承認されました。



公開講座

庄原市民公開講座

庄原市教育委員会と本学共催の市民公開講座『“今”から考える日本の将来』が6月28日、7月7日、15日、22日の4回行われました。詳しい内容にあるように、現在日本社会が考えるべき、また課題となっている事柄を取り上げ、その理解を深めまし



た。秋に実施の後期の講座では、ストレスをテーマに実施する予定です。延べ参加人数は93名で、23名が修了証書を授与されました。

回	講座名	講師
1	変わる性の観念～LGBTって？	地域連携センター 准教授 上水流久彦
2	依存症の仕組み～薬物、たばこ、アルコール	生命環境学部 助教 大田 毅
3	TPPと日本の農業	生命環境学部 准教授 村田和賀代
4	マイナス金利政策の功罪	経営情報学部 准教授 村上 恵子

本学主催公開講座

本学主催講座『成分分析の基本的考え方とその応用』を7月29日に本学教員2名を講師に開催しました。近年、地域の資源を生かした商品開発が盛んで、本学にも水、果物、加工食品の相談があります。商品開発のお手伝いの一環として始め、3年目の今年、一旦の区切りを迎えました。今年度は18名に修了証書が授与されました。要望があれば、また行いたいと思います。

回	講座名	講師
1	成分分析を依頼する前に！ 成分分析の基本事項	生命環境学部 教授 西村 和之
2	成分分析のその後 商品化・宣伝利用の実例から	生命環境学部 准教授 吉野 智之

国際貢献

本学が協力したJICA研修「中小企業振興政策(C)」が、アルバニア(1名)、ジョージア(1名)、モンテネグロ(2名)、マケドニア(1名)、モルドバ(1名)の5か国、6名の参加のもと、5月17日～6月24日の日程で実施されました。研修では日本の中小企業振興、金融システム、国外市場開拓などの理論と実践を学ぶと同時に、庄原市、三次市などで第三セクター、産学官連携、6次産業、道の駅の制度等について学び、県内各地の企業を視察しました。東京や京都でも視察を行いました。金融制度や道の駅、人材育成などに研修者は強く関心を持ちました。5月23日に中村健一学長を表敬訪問し、当日にはカンントリーレポート(各国の状況に関する)発表会を実施し、本学の学生も多く参加しました。本学からは生命科学科吉野智之准教授、経営学科村上恵子准教授らが講師を務めました。



研究紹介

フィールド科学教育研究センターの取り組み事例

生命環境学部生命科学科 教授 入船浩平

庄原キャンパスが位置する中山間地域には、中国山地の豊かな自然とくらしの知恵が満ちています。一方、食と農、環境にかかわる多くの課題も抱えています。本センターでは、こうした課題に対し地域と大学とが協働し、センター機能を活かしながら地域の実情に沿った学生の教育・研究にあたっています。

本稿では、現在実施中の備北丘陵公園との共同事業を紹介します。1つは、備北地域の希少植物種であるキク科ヒゴタイの保護育成事業です。同園内にヒゴタイ苗を定植し、栽培適地の選定や自然展示による種の保全の啓発教育を兼ねたもの、他に、生命科学科甲村浩之准教授は県北部が夏秋トマトの産地であることから、ソバージュ（フランス語で粗放の意）栽培による回廊づくりを行っています（写真）。北ゲートにあり、中を歩けます。調理用品種なので料理にも使えないかと考えています。

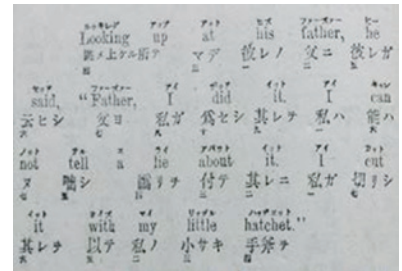


英語教材の歴史を探り、現代の学びに活かす

生命環境学部生命科学科 教授 馬本勉

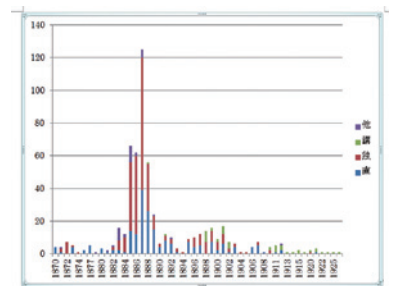
私は「英語教育学」の研究を通して、英語の学びをより良いものにするを考えています。中でも、幕末明治期以降の教材の移り変わりを捉えることから、新たな指導法の開発を試みています。

海外から輸入された明治期の英語教科書用の「独案内」（独習書）は、単語の発音と意味、訳順の数字を通じて



文法が学べるようになっていきます。漢文の訓読を思わせる「独案内」は、それを書き下した「直訳」という書物とともに多数出版されました。そのピークは明治20年頃。しかしそれらは、英語学習を妨げる「虎の巻」だとして批判されるようになります。

英文の理解を助けるために今なお行われている「訳読」。明治期の「独案内」や「直訳」の分析を通じて「訳読変遷史」を描き、そこから、日本の学習者に相応しい今日的な学びを模索していきたいと思ひます。



英語独習書発行点数の推移

地域連携 庄原から文化を発信する

外国語授業と自習にICTを導入するCALL教室が2006年に完成し、その年度末から「英語生涯学習講座」を始めました。第1回のテーマは「いつからでも始められる英語」。「CALL教室での学び体験」という副題のもと、庄原キャンパスの英語教員3名が地域の皆様を対象に、コンピュータを用いた学習法や、自らの研究内容などを紹介しました。2回目以降、「英語圏の文化と日本」、「英語と社会・文化・歴史」というように、CALLでの学びから徐々に文化のテーマにシフトし、英語教員以外の講師も加えた

2009年度から、「言語文化生涯学習講座」と改めました。

昨年度は通算10回を迎えましたが、これまでに、「文化の翻訳」「異文化理解」「ローカル&グローバル」「対話」など、言語、文化、歴史、教育など、幅広いテーマを扱ってきました。いつも熱心に参加して下さる地域の皆様に支えられ、私たちの研究と教育について広く知っていただく機会となっています。次の10年も一層充実した講座となるよう、努めて参ります。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

地域連携

三原テレビ放送

～三原市チャンネル「いきいき健康ひろば」～



三原市民の健康づくりの推進に貢献することを目的とし、2007年9月から三原テレビ放送と三原市、そして大学が連携して三原市広報番組の三原市チャンネル内で「いきいき健康ひろば」という健康情報番組を作成しています。番組内で在学学生によるオープンキャンパスや大学祭などの大学行事の情報も発信しており、三原市民に大学を知ってもらえる場になっています。放送時間・スケジュールは下記の表のとおりです。番組内容についてのご質問、ご感想、または放送に取り上げてもらいたいテーマなどがありましたら、ご一報いただければ幸いです。

※放送時間（三原TVコミュニティチャンネル2ch）

月曜・土曜・日曜 (5回/日)	7時15分～、12時15分～ 19時15分～、20時15分～ 0時15分～
火曜～金曜 (6回/日)	7時15分～、12時15分～ 19時15分～、20時15分～ 23時15分～、0時15分～

※放送時間は15分間で、同じ内容を繰り返し放送します。

●今後の放送スケジュール（予定）

放送月	放送内容
10月	子どもの作業療法 —大学クリニックでの実践—
11月	子ども食堂について
12月	子どもの発達が気になる時に…(1)
1月	放送休止
2月	子どもの発達が気になる時に…(2)
3月	事前指示書について

※放送内容等が変更になることもありますのでご注意ください。

詳しくは三原テレビ放送ホームページ (<http://www.mcat.co.jp/>) より『コミチャン番組表』を参照してください。

また、三原市のホームページから放送された番組を視聴できますので興味のある方は次のアドレスへアクセスしてください。

(<http://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/channel/>)

地域貢献

インターアクト指導者研修会について

5月28日、三原キャンパスにおいて国際ロータリー第2710地区（広島県）第39回インターアクト指導者研修会が開催されました。

国際的な社会奉仕連合団体である「国際ロータリー」では、14歳～18歳の青少年による社会奉仕と国際理解のための活動「インターアクト」を提唱し、それらを行う「インターアクトクラブ」の設立・運営を支援しています。県内には11の高校にインターアクトクラブが設立されており、各地のロータリークラブの支援のもと、毎年持ち回りで社会奉仕と国際理解に関する研修会を開催しています。

今年の研修会は如水館高校がホスト校、三原ロータリークラブがホストスポンサーとなって、三原市で8年ぶりに開催することになり、前回（2008年）と同様に本学三原キャンパスに研修会への協力依頼があり、地域貢献の一環であるとともに、県内高校生に本キャンパスをPRするよい機会にもなることから、今回も協力することとしました。

今回は「Be Global, Broaden Your World!」というテーマで、国際交流への理解を深める内容の講演と演習を行い、県内の8高校から約80名の中・高校生とその指導教員、演習に参加する外国人留学生、ロータリークラブ会員など、約120名の参加者が三原キャンパスに集いました。



講演は、かつてロータリー財団の奨学生であった人間福祉学科の三原博光教授が「国際交流の喜び」というテーマで行いましたが、奨学生としてドイツの大学に留学し特殊教育学を学んだことが現在の教育・研究活動に繋がっていることや本学とドイツNRWカトリック大学の教職員・学生の相互交流などについての話を、高校生たちはメモをとりながら熱心に聴いていました。

演習は理学療法学科の塩川満久准教授の企画で、本学をはじめ県内大学から8か国8人の留学生に参加してもらい、「外国から見た日本（日本の高校生に必要なもの）」というテーマで高校生たちとの意見交換を行いました。最初に留学生がそれぞれ自国の紹介をしましたが、イラン人留学生の民族衣装ファッションショーや中国人留学生の二胡の生演奏など工夫を凝らしたプレゼンが続き、大いに盛り上がりました。留学生の自国紹介が長くなり、グループに分かれての意見交換の時間は十分とれませんでした。閉会行事の後、帰りのバスの発車時刻ぎりぎりまで高校生たちが留学生を囲み、歓談や写真撮影、メールアドレスの交換などを行う光景が各所で見られ、参加した高校生にとって、国際交流意欲を大いに高める有意義な研修会となったようです。

「小さな親切」運動 三原市部から表彰

人間福祉学科3年生宮崎慧さんが、地域の障害者の方々への余暇支援ビーチボールバレー交流会活動を行い、人間福祉学科学生代表として「小さな親切運動」三原支部から表彰を受けました。人間福祉学科は、三原市障害者の父親会と合同で、毎年5月、体育館で学生と障害者がビーチボールバレーを楽しみ、カレーを調理して全員で食べる企画を立てて実施しています。

今年で10回目の開催となり、毎年150名～200名の方が参加します。宮崎さんは、今回の学生のリーダーを務めました。障害者の保護者が「わが子が大学で若い人と一緒に楽しくビーチボールバレーをし、カレーを食べることができる」と述べられていました。学生達は今回の受賞を励みに、障害者の方々と共に交流会をいつでも続けたいと考えています。



研究紹介

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるために — 高齢者のための居場所づくり —

保健福祉学部看護学科 講師 岡田麻里



人は誰でも事故で障がいをおう可能性があります。また、年をとらない人は誰もいません。障がいをおっても年をとっても、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、どのような心構えがいるのでしょうか。また自立した生活を続けるためにはどのような支援があればよいのでしょうか。家族や地域の支えはどうあればよいのでしょうか。

私は、現在、広島県庄原市総領町という地域で、在宅看護の立場から高齢者生活支援に関する調査研究をしています。総領町は、広島県北部にある中山間地域です。2月には節分草が咲き、山や田畑に囲まれた緑豊かで自然に恵まれた地域です。人口約1500人、65歳以上人口は41%と高齢化が進んでいます。2014年度に総領町在住の高齢者全員を対象に生活調査をしました。前期高齢者と比較すると後期高齢者で健康状態が低下し生活の困りごとが多くなることが分かりました。一方で、社会的交流や安心感・幸福感は両者に大きな違いがみられませんでした。同時に、1人1人の高齢者のご自宅を訪問し生活に関するインタビュー調査も進めています。このような調査から地域の課題や強みを明らかにし、住民の集いや専門職の集まるケア会議で紹介し検討することで、地域のニーズにあった居場所づくりを地域と協働して取り組みたいと思っています。



広島キャンパス

HIROSHIMA CAMPUS

地域連携・産学連携

地域連携成果発表会 & 産学官連携研究発表会

3月4日、サテライトキャンパスひろしまにおいて地域連携成果及び産学官連携研究を紹介する発表会を開催しました。地域連携成果発表会では、地域戦略協働プロジェクト事業、産学官連携商品、公開講座及びクラウドキャンパスシステムの取り組みについて展示・紹介し、産学官連携研究発表会では、3名の教員による自治体や企業と連携した産学官連携による共同研究について発表しました。



成果発表会の様子

産学官連携商品の展示ブースや試食会場も設置し、来場者の方々との活発な情報交換や交流が行われました。また、別会場では産学官連携商品の試食会も行い、様々な意見をいただきました。こうした意見を産学官連携活動に繋げていきたいと考えています。



展示ブースの様子

第3回創業セミナー

3月4日、サテライトキャンパスひろしまにおいて、公益財団法人ひろしま産業振興機構ならびに日本政策金融公庫との共催で第3回創業セミナーを開催（成果発表会、研究発表会と併催）しました。

ベンチャー企業を支援するベンチャーファンドの立場から見た大学との連携による地域イノベーションの創出をテーマとし、講師には大学発ベンチャーを支援するファンドを運営されているQBキャピタル合同会社代表社員の坂本剛氏をお招きしました。大学発ベンチャーに関する支援施策や取り組み等について、事例をもとに分かりやすくお話しいただきました。参加者の方からは「たいへん役立ちました」という声があり、質疑応答では活発な議論が行われました。



広島県環境保健協会と

包括連携協力協定を締結しました

3月1日、一般財団法人広島県環境保健協会と包括的連携協力に関する協定を締結しました。同日、サテライトキャンパスひろしまにおいて調印式を執り行い、「県立広島大学と広島県環境保健協会が持つ人材、知識、情報などの資源を活用して相互に連携協力することにより、地域社会の環境づくりや健康づくりの推進に寄与すること」を目標に掲げ、連携協力を進めていくことで合意しました。今後は具体的な連携事業を創造し、広島県の地域に根ざした取り組みに結びつけていきたいと考えています。



調印式の様子

公開講座

お子さま連れで学べるマネジメント基礎講座

育児休暇中や小さい子どもを持つ女性の学びやキャリアアップを支援することを目的として、2012年度より本講座を開講しています。今年度は広島市舟入公民館と連携して行いました。この講座は子ども同伴で講義を聴くことができるのが特色です。「育休中に子ども連れで参加できる講座があるのは、とてもうれしい。いろいろな分野でこのような講座があると、もっと勉強できると思った」、「育休中は社会とのつながりも減るため、復帰前に有意義な講義に参加できて、ありがたかった」などの感想が寄せられています。



前期は、このほか、廿日市市との連携講座「憲法を学ぶ～憲法記念日にちなんで～」、歴史・文化・文学系として「広島県の中世遺跡と発掘調査の成果」（広島県立図書館との連携講座）、「毛利元就の六人の息子たち」（広島市文化財団等との連携講座）、「アニメ映画になったイギリス児童文学の名作はいかに書き換えられたか」、「ひろしま学を考える」（広島市立大学との連携講座）、「日本文学と美術」（ひろしま美術館との連携講座）、情報系として「私たちの身の回りのICT」、「情報セキュリティマネジメント試験対策講座」を開講しました。

研究紹介

地下に埋もれた都市の歴史を探る

人間文化学部国際文化学科 准教授 鈴木康之

鎌倉時代から南北朝・室町時代を経て戦国時代へと至る中世と呼ばれる時代の社会を、発掘調査による出土資料から復原する「中世考古学」という領域の研究を進めています。



日本列島には中世の古文書が数多く残されており、従来はもっぱら古文書の精読をとおして社会の状況が復原されてきました。しかし、古文書の内容や伝来には偏りがあり、当時の社会が正しく反映されているとは限りません。1970年代以降に国土開発が激化し、多くの中世遺跡が発掘調査されるようになると、動かぬ物的証拠とでもいべき出土資料の研究が進展し、古文書だけではわからなかった当時の社会の様子が、豊かな内容とともに復元できるようになったのです。

こうした中世考古学の重要性をいち早く提示したのが、福山市にある草戸千軒町遺跡という港湾集落の跡です。学生時代にこの遺跡の魅力に取りつかれた私は、広島県教育委員会が設置した調査研究機関で発掘調査に従事するとともに、その研究成果を公開する県立歴史博物館の開館準備や開館後の運営などに携わってきました。

現在は、日本列島の沿岸に数多く存在する港湾の成立・発展過程や、そこを拠点に活動した人々の姿、行き交った物資の実態などを解明する研究に取り組んでいます。

家計の金融行動と金融市場・制度に関する研究

経営情報学部経営学科 准教授 塚原一郎

2016年の2月から日本でもマイナス金利政策が導入され、銀行の預金金利はさらに下がり続けています。銀行にお金を預けておくだけでは、資産はほとんど増えず、自分で将来の資産設計を考えなくてはいけない時代になってきました。しかし、株価の変動も激しくて、株式投資も難しい状況です。家計の金融行動に対する注目度は、年々高まっています。

私は、日本の家計の貯蓄や投資行動の特徴について、様々なデータを用いて統計的に分析をしています。貯蓄や株式投資が多いのはどのような家計かを解明することにより、政府や金融機関が取るべき対策も変わってきます。また、貯蓄や投資行動を分析するには、金融だけでなく、労働や教育、国内外の景気など、経済学的な観点からの考察も必要になり、研究対象は多岐に渡ります。

さらに、金融市場の変動や金融制度の変更が、家計の金融行動にどのような影響を与えるかも研究しています。その前提として、金融市場や制度に関する理解も必要です。金融市場については、日米の株式市場、株式市場と外国為替市場など、複数の市場が相互にどのように影響しあっているか、調査をしています。金融制度については、近年、国内外とも制度変更が頻繁に起こるので、最新の状況の把握に努めています。

福山ミュージアムツアー

本学は県内12の美術館・博物館のキャンパスメンバーズ制度に加入しています。年会費を納めることで学生と教職員が無料鑑賞できるこの制度を活用し、5月に福山市の博物館や美術館を訪ねるミュージアムツアーを行いました。

福山駅周辺には「ふくやま文化ゾーン」と呼ばれる地区があり、広島県立歴史博物館のほか、福山市立福山城博物館、ふくやま文学館、ふくやま美術館など、多くの文化施設が集まっています。この日は、メンバーズ制度の会員となっ

ている広島県立歴史博物館で解説を聞き、その後は各館を自由にゆっくり見て回りました。企画展や記念講演会も開催されており、有意義な1日を過ごすことができました。



このような教員が各キャンパスにいます!

各キャンパスには専門的な科目を担当する教員の他にも、幅広い知識を提供する共通教育を教えている教員がいます。地域における講座等の講師にと思われましたら、地域連携センターまでご連絡ください。

広島キャンパス

- 総合教育センター 准教授 五條小枝子 (ごじょう さえこ)
研究テーマ:「中世女流日記文学および毛利家文書の研究」 担当科目: 文学, 日本語表現ほか
- 総合教育センター 講師 岡田 高嘉 (おかだ たかよし)
研究テーマ:「現代社会における差別の法的救済について」 担当科目: 法学, 日本国憲法ほか
- 総合教育センター 助教 中石ゆうこ (なかいし ゆうこ)
研究テーマ:「豊かな日本語力の育成を目指して」 担当科目: 日本語(留学生対象), 日本語教育学ほか

庄原キャンパス

- 生命環境学部生命科学科 准教授 大草 輝政 (おおくさ てるまさ)
研究テーマ:「西洋古代哲学研究」 担当科目: 哲学, 倫理学, ドイツ語 I・II
- 地域連携センター 准教授 上水流久彦 (かみづる ひさひこ)
研究テーマ:「東アジアの歴史認識, 観光などをテーマとした文化の研究」 担当科目: 文化人類学など
- 生命環境学部環境科学科 准教授 楠堀 誠司 (くすぼり せいじ)
研究テーマ:「ラケットスポーツ科学, アドベンチャー教育」 担当科目: 体育実技 I・II, 保健体育理論
- 生命環境学部生命科学科 准教授 R. スチュワート
研究テーマ:「諷刺漫画を通じる比較文化と文化史の研究」 担当科目: 英語表現 I・II・III・IV, 検定英語
- 生命環境学部環境科学科 准教授 藤井 宣彰 (ふじい のぶあき)
研究テーマ:「教育条件と教育成果に関する研究」 担当科目: 教育社会学ほか教職に関する科目

三原キャンパス

- 保健福祉学部 理学療法学科 准教授 塩川 満久 (しおかわ みつひさ)
研究テーマ:「動作分析による動態評価と指導内容の検討」 担当科目: 体育教育学, 人間工学ほか
- 保健福祉学部 理学療法学科 准教授 高島 裕臣 (たかしま ひろおみ)
研究テーマ:「日本人学習者の英語語彙知識に関する研究」 担当科目: 英語, 検定英語ほか

地域連携センター報は本学ホームページにバックナンバーを掲載していますので、ご活用ください。
地域連携センターの活動についても、あわせてご覧ください。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

編集後記

地域連携センター第23号をお届けします。本号では、今年度も2月に開催される脳をみるシンポジウム in 三原の報告と告知をはじめ、共通教育科目を教えている教員の紹介、公開講座や地域貢献に関する活動を掲載しています。

今後も地域の皆様のご期待に応えられるように様々な事業に取り組んでいきますので、引き続きご支援とご協力をお願いします。

編集発行

県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号
電話(082)251-9534 / E-mail: renkei@pu-hiroshima.ac.jp
<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

各キャンパス問合せ先

県立広島大学庄原地域連携センター

〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地
電話(0824)74-1704 / E-mail: gakuju@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学三原地域連携センター[本号編集担当]

〒723-0053 広島県三原市学園町1番1号
電話(0848)60-1200 / E-mail: mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp